

## 船橋市の自殺の現状

\*各種統計データのデータ出典について、特に記載のない場合は、全て厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」です。

### I. 自殺死亡率・自殺者数の推移

#### 1. 船橋市自殺死亡率(自殺日・住居地)の推移

計画の数値目標としている3年平均自殺死亡率の現状値(令和2年～令和4年平均値)は15.5で、令和元年～令和3年平均値と比べ0.1ポイント上昇となっている。【図表1】【図表2】

令和4年の自殺死亡率は、14.7となっている。男性は20.8で令和3年と比べ1.2ポイントの上昇、女性は8.6で令和3年と比べ2.5ポイントの低下となっている。【図表3】

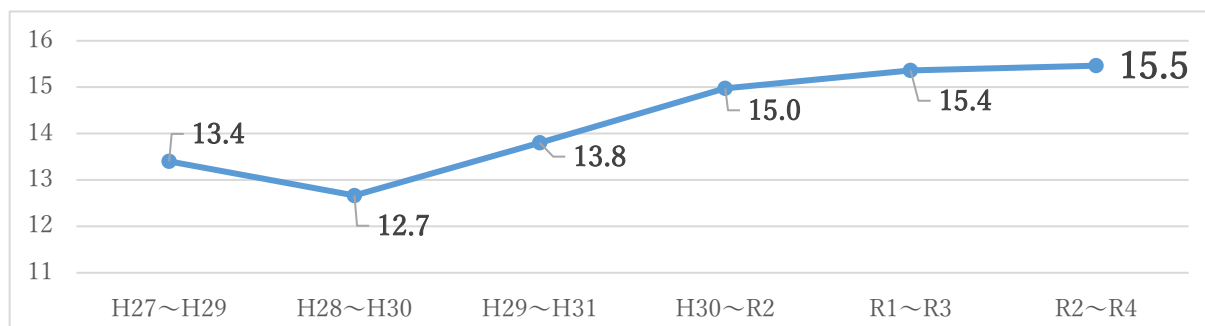
【図表1】船橋市自殺対策計画 数値目標

(単位：10万人対)

目標	基準値	現状値	目標値
	平成27年～平成29年平均値	令和2年～令和4年平均値	令和2年～令和4年平均値
自殺死亡率 (10万人対)	13.4	15.5	11.3

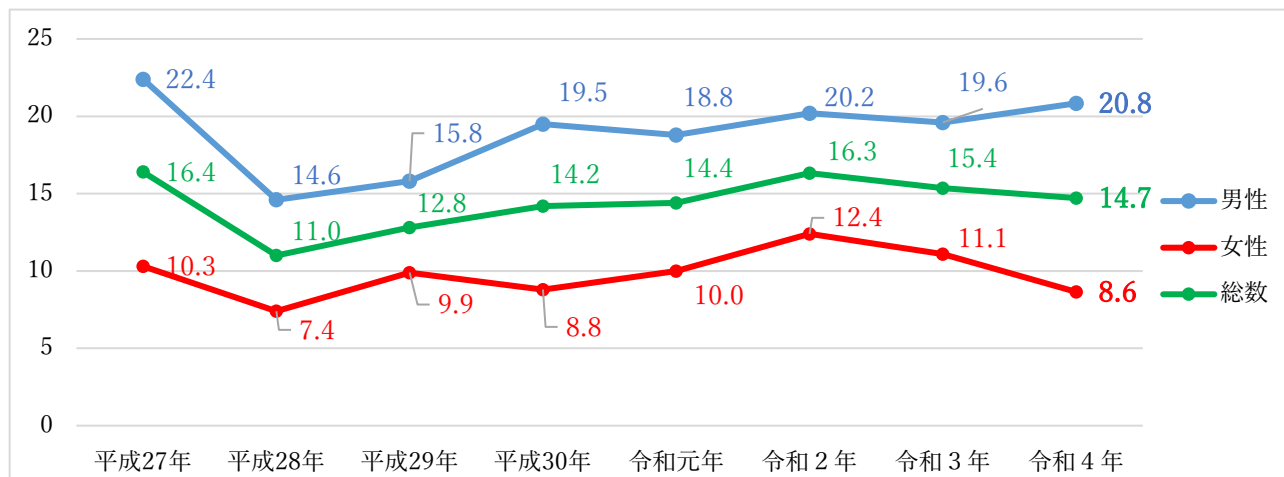
【図表2】船橋市3年平均自殺死亡率の推移

(単位：10万人対)



【図表3】船橋市自殺死亡率の推移

(単位：10万人対)

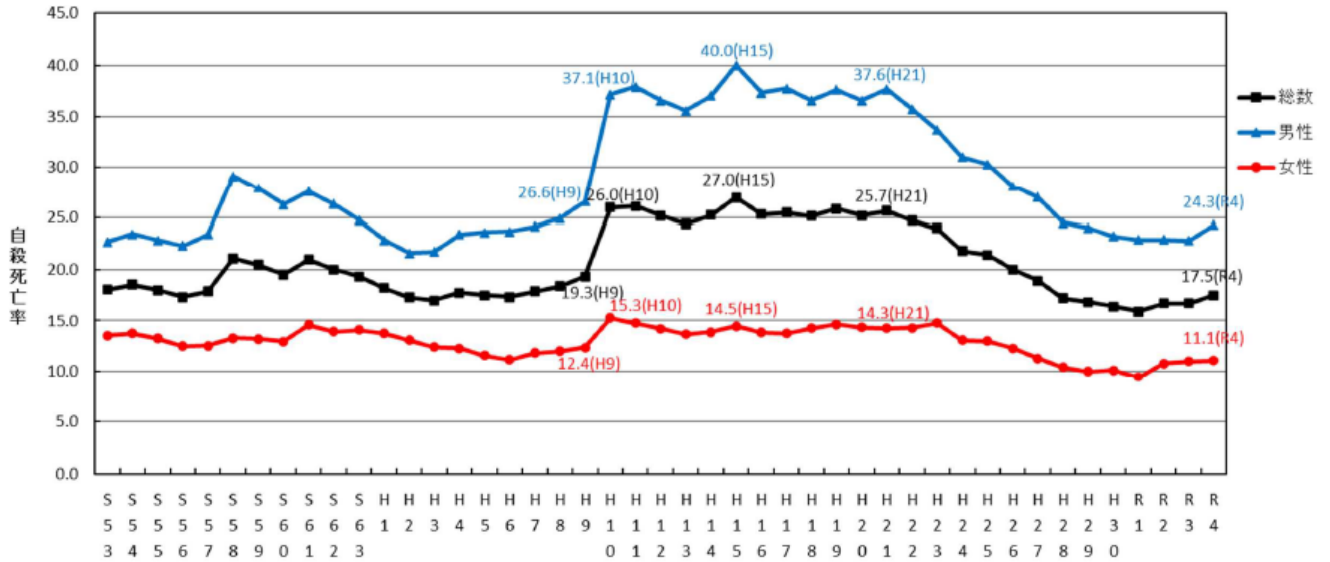


## 2. 国の自殺死亡率（発見日・住居地）の推移

令和4年の自殺死亡率は17.5（自殺者数は21,881人）。

男女別にみると、男性は24.3で令和3年と比べて1.5ポイントの上昇、女性は11.1で令和3年と比べて0.1ポイントの上昇となっている。（【図表4】）

【図表4】国の自殺死亡率の推移



注)「自殺死亡率」とは、人口10万人当たりの自殺者数をいう。

資料：警察庁自殺統計原票データ、総務省「国勢調査」及び「人口推計」より厚生労働省作成

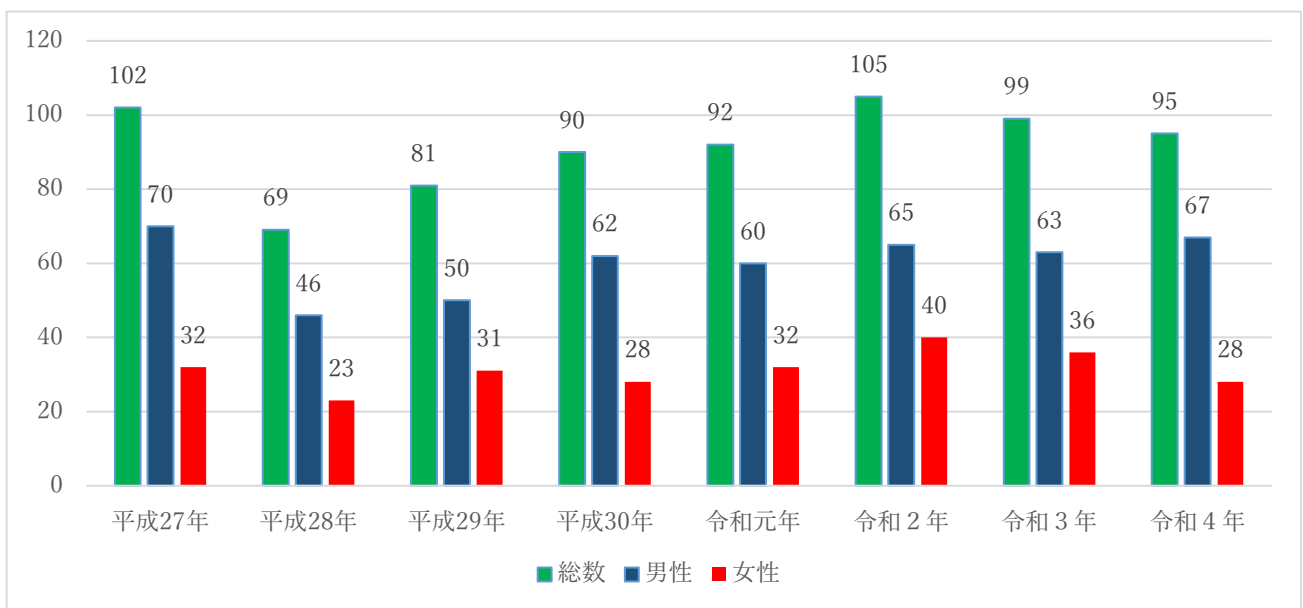
(出典：厚生労働省自殺対策推進室「令和4年中における自殺の状況」)

## 3. 船橋市自殺者数の年次推移

令和4年の自殺者は95人（男性67人、女性28人）。前年に比べ4人減少となっている。（【図表5】）

【図表5】船橋市自殺者数の年次推移（自殺日・住居地・確定値データ）

(単位：人)



## II. 令和4年の船橋市の自殺の動向

※各種統計データのデータ出典は、特に記載のないものは、全て厚生労働省「地域における自殺の基礎資料（自殺日・住居地の令和4年確定値）」。

\*比率は百分率で示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。そのため、百分率の合計が100%にならないことがあります。

### 1. 自殺者総数

令和4年の自殺者総数は95人。令和3年と比較し、男性は4人増加、女性は8人減少。男性の自殺者数は、女性の約2.4倍となっている。

【図表6】自殺者総数 (単位：人)

	総数	男	女
令和4年	95	67	28
(構成比)	(100.0%)	(70.5%)	(29.5%)
令和3年	99	63	36
(構成比)	(100.0%)	(63.6%)	(36.4%)
増減数	-4	4	-8
(構成比)	—	(6.9%)	(-6.9%)
増減率 (%)	-4.0%	6.3%	-22.2%

### 2. 年代別自殺者数

令和4年の年代別自殺者数は、令和3年と同様に「50～59歳」が17人と最も多い。令和3年と比べ、「30-39歳」、「70～79歳」、「80歳以上」で増加している。(【図表7】)

男女別年代別自殺者数では、男性は「50-59歳」が14人と最も多く、「70-79歳」は前年と比べ7人増と最も増加。女性では「30-39歳」が7人と最も多く、前年と比べ6人増と最も増加。(【図表8】)

【図表 7】年代別自殺者数

(単位：人)

	総数	20歳	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80歳以上
		未満	歳	歳	歳	歳	歳	歳	上
令和4年 (構成比)	95 (100.0%)	2 (2.1%)	8 (8.4%)	16 (16.8%)	16 (16.8%)	17 (17.9%)	9 (9.5%)	13 (13.7%)	14 (14.7%)
令和3年 (構成比)	99 (100.0%)	6 (6.1%)	14 (14.1%)	11 (11.1%)	16 (16.2%)	21 (21.2%)	16 (16.2%)	7 (7.1%)	8 (8.1%)
増減数 (構成比)	-4 -	-4 -4.0%	-6 -5.7%	5 5.7%	0 0.7%	-4 -3.3%	-7 -6.7%	6 6.6%	6 6.7%
増減率	-4%	-67%	-43%	45%	0%	-19%	-44%	86%	75%

【図表 8】男女別年代別自殺者数

(単位：人)

	男性	20歳	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80歳以上
		未満	歳	歳	歳	歳	歳	歳	以上
令和4年 (構成比)	67 (100.0%)	1 (1.5%)	7 (10.4%)	9 (13.4%)	13 (19.4%)	14 (20.9%)	5 (7.5%)	9 (13.4%)	9 (13.4%)
令和3年 (構成比)	63 (100.0%)	2 (3.2%)	8 (12.7%)	10 (15.9%)	13 (20.6%)	14 (22.2%)	7 (11.1%)	2 (3.2%)	7 (11.1%)
増減数 (構成比)	4 -	-1 -1.7%	-1 -2.3%	-1 -2.4%	0 -1.2%	0 -1.3%	-2 -3.6%	7 10.3%	2 2.3%
増減率	6%	-50%	-13%	-10%	0%	0%	-29%	350%	29%

	女性	20歳未	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80歳以上
		満	歳	歳	歳	歳	歳	歳	以上
令和4年 (構成比)	28 (100.0%)	1 (3.6%)	1 (3.6%)	7 (25.0%)	3 (10.7%)	3 (10.7%)	4 (14.3%)	4 (14.3%)	5 (17.9%)
令和3年 (構成比)	36 (100.0%)	4 (11.1%)	6 (16.7%)	1 (2.8%)	3 (8.3%)	7 (19.4%)	9 (25.0%)	5 (13.9%)	1 (2.8%)
増減数 (構成比)	-8 -	-3 -7.5%	-5 -13.1%	6 22.2%	0 2.4%	-4 -8.7%	-5 -10.7%	-1 0.4%	4 15.1%
増減率	-22%	-75%	-83%	600%	0%	-57%	-56%	-20%	400%

### 3. 職業別自殺者数

令和4年の職業別自殺者数は、「年金・雇用保険等生活者」が32人と最も多く、次いで、「有職者」が30人、「その他の無職者」が19人となっている。（【図表9】【図表10】）

令和3年と比べ、自殺者数の増加が「年金・雇用保険等生活者」で11人、「失業者」で7人、「その他の無職者」で6人増えている。一方で、自殺者数の減少は、「有職者」で15人、「主婦」で8人減っている。（【図表9】）

令和4年の職業別自殺者を男女別で見ると、「失業者」は男性9人、女性1人、「その他の無職者」で男性が18人、女性1人と、女性より男性の自殺者が多い傾向となっている。（【図表11】）

【図表9】 職業別自殺者数

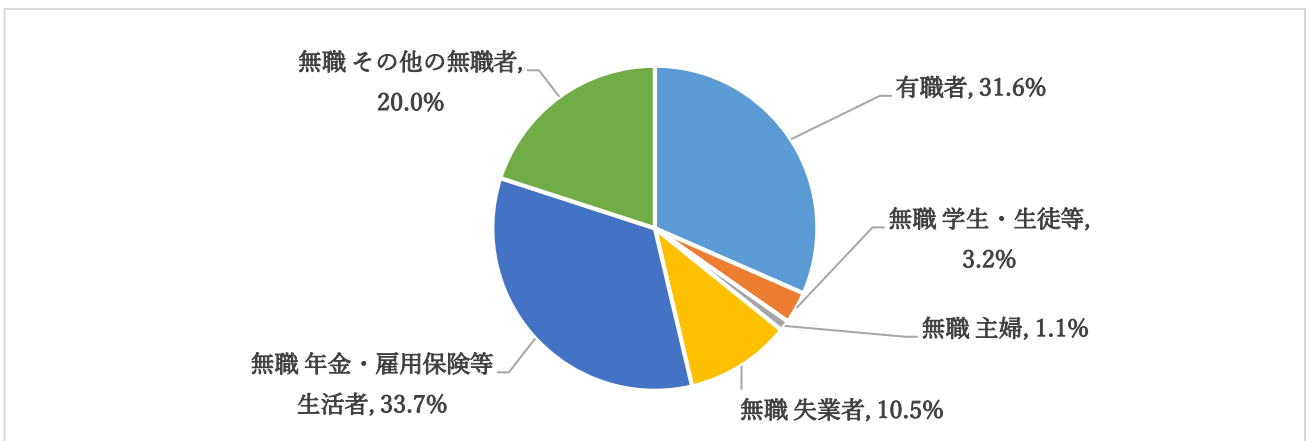
(単位：人)

	総数	有職者	無職				
			学生・生徒等	主婦	失業者	年金・雇用保険等生活者	その他の無職者
令和4年 (構成比)	95 (100.0%)	30 (31.6%)	3 (3.2%)	1 (1.1%)	10 (10.5%)	32 (33.7%)	19 (20.0%)
令和3年 (構成比)	99 (100.0%)	54 (45.5%)	8 (8.1%)	9 (9.1%)	3 (3.0%)	21 (21.2%)	13 (13.1%)
増減数 (構成比)	-4 —	-15 (-13.9%)	-5 (-4.9%)	-8 (-8.0%)	7 (7.5%)	11 (12.5%)	6 (6.9%)
増減率	-4%	-33%	-63%	-89%	233%	52%	46%

\* 職業について

職業は大分類で「有職者」、「無職」に区分される。「無職」は「学生・生徒等」（未就学児、小学生、中学生、高校生、大学生、専修学校生等を含む）と、「主婦」、「失業者」、「年金・雇用保険等生活者」、それ以外の無職者（利子・配当・家賃等生活者、ホームレス、その他の無職者）を「その他の無職者」に区分される。令和4年から、「有職者」の「自営業・家族従業者」と「被雇用・勤め人」の区分の公表がなくなりました。

【図表10】 令和4年職業別自殺者数の割合



【図表 11】 令和 4 年職業別男女別自殺者数

(単位：人)

	総数	有職者	無職				
			学生・生徒等	主婦	失業者	年金・雇用保険等生活者	その他の無職者
男性	67	19	2	0	9	19	18
女性	28	11	1	1	1	13	1
総数	95	30	3	1	10	32	19

## 4. 自殺者の原因・動機別自殺者数

令和 4 年の原因・動機別自殺者数は、「健康問題」が 59 人と最も多く、次いで「経済・生活問題」が 28 人、「家庭問題」が 17 人となっている。(健康問題の内、うつ病等の精神疾患については、家庭問題、経済・生活問題をはじめとする他の問題が深刻化する中で連鎖して発生することも多いと考えられることに留意が必要。)(【図表 12】)

令和 3 年と比べ、令和 4 年は「健康問題」、「経済・生活問題」で増加となっている。(【図表 12】)

男女別でみると、男性は「健康問題」が 36 人と最も多く、次いで「経済・生活問題」が 27 人、「家庭問題」が 14 人となっている。女性は「健康問題」が 23 人と最も多く、女性の自殺者の 8 割を超えている。(【図表 13】)

【図表 12】 原因・動機特定者の原因・動機別自殺者数

(単位：人)

	原因・動機別							
	家庭問題	健康問題	経済・生活問題	勤務問題	交際(男女)問題	学校問題	その他	不詳
令和 4 年 自殺者総数 (n=95 人) に占める割合	17 17.9%	59 62.1%	28 29.5%	5 5.3%	6 6.3%	0 0.0%	5 5.3%	1 1.1%
令和 3 年 自殺者総数 (n=99 人) に占める割合	22 22.2%	47 47.5%	16 16.2%	7 7.1%	6 6.1%	3 3.0%	11 11.1%	18 18.2%
増減数	-5	12	12	-2	0	-3	-6	-17
増減率 (%)	-22.7%	25.5%	75.0%	-28.6%	0.0%	-100.0%	-54.5%	-94.4%

注)自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

注)自殺の原因・動機に関して、令和 3 年までは、遺書等の生前の言動を裏付ける資料がある場合に限って、自殺者一人につき 3 つまで計上可能としていたが、令和 4 年からは、家族等の証言から考える場合も含め、自殺者一人につき 4 つまで計上可能とした。このため、単純に比較することはできない。原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因動機特定者数とは一致しない。

【図表 13】 令和 4 年原因・動機特定者の原因・動機別男女別自殺者数

(単位：人)

	原因・動機別							
	家庭問題	健康問題	経済・生活問題	勤務問題	交際問題	学校問題	その他	不詳
令和 4 年 自殺者数男性 (n = 67 人) に占める割合	14 20.9%	36 53.7%	27 40.3%	3 4.5%	2 3.0%	0 0.0%	4 6.0%	1 1.5%
令和 4 年 自殺者数女性 (n = 28 人) に占める割合	3 10.7%	23 82.1%	1 3.6%	2 7.1%	4 14.3%	0 0.0%	1 3.6%	0 0.0%
令和 4 年 自殺者数総数 (n = 95 人) に占める割合	17 17.9%	59 62.1%	28 29.5%	5 5.3%	6 6.3%	0 0.0%	5 5.3%	1 1.1%

\* 原因・動機の分類について

## ①家庭問題

親子関係の不和、夫婦関係の不和、その他の家族関係の不和、家族の死亡、家族の将来悲観、家族からのしつけ・叱責、子育ての悩み、被虐待、介護・看護疲れ、その他の家族問題

## ②健康課題

病気の悩み（身体の病気）、病気の悩み・影響（うつ病、統合失調症、アルコール依存症、薬物乱用、その他の精神疾患）、身体障害の悩み

## ③経済・生活問題

倒産・事業不振、失業、就職失敗、生活苦、負債（多重債務）、負債（連帯保証細部）、負債（その他）、借金の取り立て苦、自殺による保険金支給、その他の経済・生活問題

## ④勤務問題

仕事の失敗、職場の人間関係、職場環境の変化、仕事疲れ、その他の勤務問題

## ⑤交際（男女）問題

結婚をめぐる悩み、失恋、不倫の悩み、その他交際を巡る悩み、その他の交際（男女）問題

## ⑥学校問題

入試に関する悩み、その他進路に関する悩み、学業不振、教師との人間関係、いじめ、その他学友との不和、その他の学校問題

## ⑦その他

犯罪発覚等、犯罪被害、後追い、孤独感、近隣関係、その他（いずれにも該当がない）

### 5. 自殺未遂歴の有無

令和4年の自殺者のうち、自殺未遂歴「あり」は14人であった。昨年と比較し、自殺未遂歴「あり」の割合は5.5ポイント減っている。男女別でみると女性自殺者の内、約2割が未遂歴あり。（【図表14】【図表15】）

【図表14】 自殺未遂歴の有無

(単位：人)

	自殺未遂歴の有無					
	あり	構成比	なし	構成比	不詳	構成比
令和4年	14	14.7%	77	81.1%	4	4.2%
令和3年	20	20.2%	72	72.7%	7	7.1%
令和2年	22	21.0%	68	64.8%	15	14.3%

【図表15】 令和4年自殺未遂歴の有無（男女別）

令和4年	自殺未遂歴の有無					
	あり	構成比	なし	構成比	不詳	構成比
男	8	11.9%	57	85.1%	2	3.0%
女	6	21.4%	20	71.4%	2	7.1%
総数	14	14.7%	77	81.1%	4	4.2%

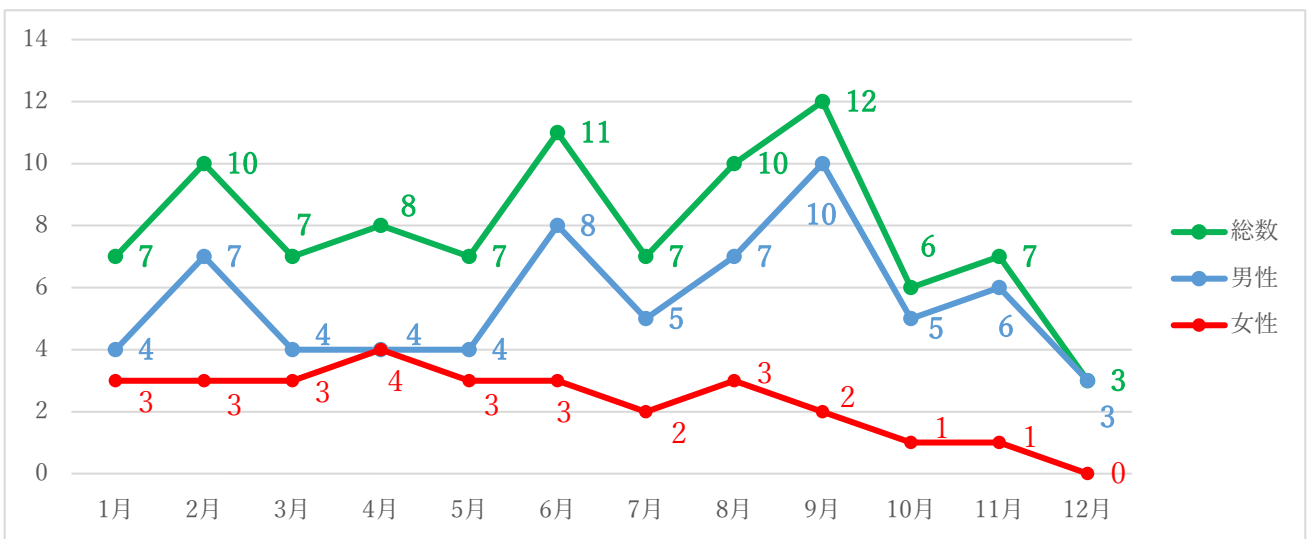
### 6. 月別自殺者数の推移

令和4年月別自殺者数は、9月が12人（男性8人、女性2人）と最も多く、12月が3人（男性3人、女性0人）と最も少なくなっている。（【図表16】【図表17】）

令和4年の月別自殺者数は、全国では5月が最も多く、千葉県及び船橋市では、9月が最も多くなっている。（【図表18】）

【図表16】 令和4年月別自殺者数

(単位：人)





【図表 17】 令和 4 年自殺者数月別推移 (単位：人)

船橋市		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
令和4年	合計	7	10	7	8	7	11	7	10	12	6	7	3	95
	男性	4	7	4	4	4	8	5	7	10	5	6	3	67
	女性	3	3	3	4	3	3	2	3	2	1	1	0	28
累計	合計	-	17	24	32	39	50	57	67	79	85	92	95	-
	男性	-	11	15	19	23	31	36	43	53	58	64	67	-
	女性	-	6	9	13	16	19	21	24	26	27	28	28	-
令和3年	合計	12	11	11	6	10	8	9	7	4	6	6	9	99
	男性	7	7	9	4	8	7	6	3	2	3	3	4	63
	女性	5	4	2	2	2	1	3	4	2	3	3	5	36
累計	合計	-	23	34	40	50	58	67	74	78	84	90	99	-
	男性	-	14	23	27	35	42	48	51	53	56	59	63	-
	女性	-	9	11	13	15	16	19	23	25	28	31	36	-
対前年増減数 (月別)(4-3)	合計	△ 5	△ 1	△ 4	2	△ 3	3	△ 2	3	8	0	1	△ 6	-
	男性	△ 3	0	△ 5	0	△ 4	1	△ 1	4	8	2	3	△ 1	-
	女性	△ 2	△ 1	1	2	1	2	△ 1	△ 1	0	△ 2	△ 2	△ 5	-
対前年増減数 累計 (4-3)	合計	-	△ 6	△ 10	△ 8	△ 11	△ 8	△ 10	△ 7	1	1	2	△ 4	-
	男性	-	△ 3	△ 8	△ 8	△ 12	△ 11	△ 12	△ 8	0	2	5	4	-
	女性	-	△ 3	△ 2	0	1	3	2	1	1	△ 1	△ 3	△ 8	-
対前年増減率 (4/3)	合計	-41.7%	-9.1%	-36.4%	33.3%	-30.0%	37.5%	-22.2%	42.9%	200.0%	0.0%	16.7%	-66.7%	-
	男性	-42.9%	0.0%	-55.6%	0.0%	-50.0%	14.3%	-16.7%	133.3%	400.0%	66.7%	100.0%	-25.0%	-
	女性	-40.0%	-25.0%	50.0%	100.0%	50.0%	200.0%	-33.3%	-25.0%	0.0%	-66.7%	-66.7%	-100.0%	-
対前年増減率 (累計)(4/3)	合計	-	-26.1%	-29.4%	-20.0%	-22.0%	-13.8%	-14.9%	-9.5%	1.3%	1.2%	2.2%	-4.0%	-
	男性	-	-21.4%	-34.8%	-29.6%	-34.3%	-26.2%	-25.0%	-15.7%	0.0%	3.6%	8.5%	6.3%	-
	女性	-	-33.3%	-18.2%	0.0%	6.7%	18.8%	10.5%	4.3%	4.0%	-3.6%	-9.7%	-22.2%	-

【図表 18】 令和 4 年月別自殺者数前年比較 (全国・千葉県・船橋市)

区分		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
全 国	R3	1,755	1,700	2,012	1,854	1,865	1,859	1,729	1,735	1,660	1,667	1,604	1,567	21,007
	R4	1,716	1,516	1,993	1,812	2,174	1,977	1,867	1,780	1,930	1,772	1,773	1,571	21,881
	増減	▲ 39	▲ 184	▲ 19	▲ 42	309	118	138	45	270	105	169	4	874
		-2.2%	-10.8%	-0.9%	-2.3%	16.6%	6.3%	8.0%	2.6%	16.3%	6.3%	10.5%	0.3%	4.2%
千 葉 県	R3	82	80	104	80	75	85	91	72	75	81	58	69	952
	R4	74	58	88	66	96	97	87	81	107	89	82	69	994
	増減	▲ 8	▲ 22	▲ 16	▲ 14	21	12	▲ 4	9	32	8	24	0	42
		-9.8%	-27.5%	-15.4%	-17.5%	28.0%	14.1%	-4.4%	12.5%	42.7%	9.9%	41.4%	0.0%	4.4%
船 橋 市	R3	13	13	9	6	10	8	7	4	5	3	7	9	94
	R4	6	7	6	6	6	10	4	9	13	3	6	4	80
	増減	▲ 7	▲ 6	▲ 3	0	▲ 4	2	▲ 3	5	8	0	▲ 1	▲ 5	▲ 14
		-53.8%	-46.2%	-33.3%	0.0%	-40.0%	25.0%	-42.9%	125.0%	160.0%	0.0%	-14.3%	-55.6%	-14.9%

※警視庁発表令和 5 年 3 月 14 日集計確定値 (遺体の発見日及び発見地による)

出典：千葉県健康づくり課自殺対策班作成資料

#### IV. 考察

船橋市の令和4年の自殺者数総数は95人で昨年に比べ4人減っている。男女別では、男性は4人増加、女性は8人減少。

年代別では、「50-59歳」が最も多くなっている。昨年と比較し、男女別では男性の70歳代、女性の30歳代で大きく増加している。

職業別では、「年金・雇用保険等生活者」が最も多く、次いで、「有職者」となっている。令和3年と比べ「年金・雇用保険等生活者」で11人、「失業者」で7人、「その他の無職者」で6人増えている。一方で、自殺者数の減少は、「有職者」で15人、「主婦」で8人減っている。男女別でみると、「失業者」は男性9人、女性1人、「その他の無職者」で男性が18人、女性1人と、女性より男性の自殺者が多い傾向となっている。

自殺の原因・動機では、「健康問題」が最も多いのは依然として変化はないが、次いで「経済・生活問題」となっている。「経済・生活問題」は特に男性で増加が顕著となっている。また、女性の自殺者の8割超で「健康問題」が自殺の原因・動機となっている。

厚生労働大臣指定法人 いのち支える自殺対策推進センター（JSCP）から示される最新の「船橋市 地域実態プロファイル2022」で、過去5年の合計の「地域の自殺の特徴」に基づき選定される「推奨される重点パッケージ」は、「勤務・経営」、「高齢者」、「生活困窮者」と示されており、その3つの重点に加え、最近の自殺者の増加傾向、「自殺総合対策大綱」の改定も踏まえ、「子ども・若者」を加えた4つを重点に、今後も船橋市の自殺対策を推進していく必要があると考えられる。

地域自殺実態プロフィール 2022

【千葉県船橋市】

(行政区コード：122041)

推奨される重点パッケージ

重点パッケージ	勤務・経営 高齢者 生活困窮者
---------	-----------------------

- ・「推奨される重点パッケージ」は下記「地域の自殺の特徴」の上位3区分の自殺者の特性と「背景にある主な自殺の危機経路」を参考に「子ども・若者」、「勤務・経営」、「生活困窮者」、「無職者・失業者」、「高齢者」の中から選定している。「ハイリスク地」や「自殺手段」と記載がある場合は、次頁の「地域の自殺の特性の評価」で当該指標が全国で上位10%以内(☆☆)であったことを示す。
- ・「推奨される重点パッケージ」は過去5年の合計に基づいており、集計年により異なる可能性がある。また、経年的な推移(過去5年の増加傾向等)は考慮していない。
- ・地域における優先的な課題となりうる施策について検討する際は、まず目安として「推奨される重点パッケージ」を確認いただき、その上で次頁の「地域の自殺の特性の評価」(人口10万人あたりの自殺死亡率等の数値の全国の市区町村中における相対的な高低をもとに評価している。)等、地域自殺実態プロフィールの他の詳細データ等を勘案していただきたい。

■地域の自殺の特徴

- ・千葉県船橋市(住居地)の2017~2021年の自殺者数は合計467人(男性300人、女性167人)であった(厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」(自殺日・住居地)より集計)。

地域の主な自殺者の特徴 (2017~2021年合計) [公表可能] <特別集計(自殺日・住居地)>

自殺者の特性上位5区分	自殺者数 (5年計)	割合	自殺死亡率* (10万対)	背景にある主な自殺の危機経路**
1位:男性 40~59歳有職同居	43	9.2%	11.6	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
2位:女性 60歳以上無職同居	41	8.8%	12.8	身体疾患→病苦→うつ状態→自殺
3位:男性 60歳以上無職同居	39	8.4%	19.8	失業(退職)→生活苦+介護の悩み(疲れ)+身体疾患→自殺
4位:男性 20~39歳有職同居	30	6.4%	13.9	職場の人間関係/仕事の悩み(ブラック企業)→パワハラ+過労→うつ状態→自殺
5位:男性 60歳以上無職独居	29	6.2%	70.7	失業(退職)+死別・離別→うつ状態→将来生活への悲観→自殺

資料：警察庁自殺統計原票データを厚生労働省(自殺対策推進室)にて特別集計

- ・区分の順位は自殺者数の多い順で、自殺者数が同数の場合は自殺死亡率の高い順とした。

\* 自殺死亡率の算出に用いた人口(母数)は、総務省「令和2年国勢調査」就業状態等基本集計を基にJSCPにて推計したもの。

\*\* 「背景にある主な自殺の危機経路」は、ライフリンク「自殺実態白書2013」を参考に推定したもの(詳細は付表の参考表1参照)。自殺者の特性別に見て代表的と考えられる経路の一例を示しており、記載の経路が唯一のものではないことに留意いただきたい。